八尾市教育センター 所報

令和７年４月
４０８号

相談支援係
072-941-3365

ICT教育推進係
072-943-5785

研究研修係
072-943-5784

教育センター
Web page は
こちらから

認め合い　ともに生き　未来を切り拓く　八尾の教育

平素より、八尾市教育センターの事業にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

令和７年４月に「八尾市教育振興基本計画後期計画」がスタートします。後期計画では、基本理念である「認め合い　ともに生き　未来を切り拓く　八尾の教育」の実現に向け、「誰一人取り残さない教育」に加え、多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じる「ウェルビーイングの考え方」を踏まえた取り組みを進めることとなりました。

本センターでは、子どもの声を尊重し、社会全体で未来を担う子どもの成長を支えるため、「八尾市教育振興基本計画後期計画」が示す基本理念のもと、研究・実践の取り組みを引き続き進めてまいります。

令和６年度は、「令和の日本型学校教育」を踏まえた教職員研修・研究、幼児教育研究、ICTを活用した授業づくりの推進、教育相談や就学相談、「共に学び共に生きる」教育を基本とした特別支援教育の推進等、様々な業務において、子ども、保護者、学校園を支援してまいりました。

とりわけ不登校児童生徒支援については、引き続き報道にも取り上げていただき、全国各地、２１の自治体等から視察を受け入れ、八尾市の不登校児童生徒支援の取り組みを発信することができました。また、校内教育支援ルームの充実や、オンラインを活用した支援をはじめとする学校内外の居場所づくりに加え、地域人材を活用した「こども★はあとサポーター」による支援や、不登校児童生徒の保護者を支援する保護者会「ほっとはあとの会」の実施、フリースクール等民間施設と「不登校児童生徒支援協力者会議」を開催し、関係機関同士の連携をより一層深める等の取り組みを推進してまいりました。

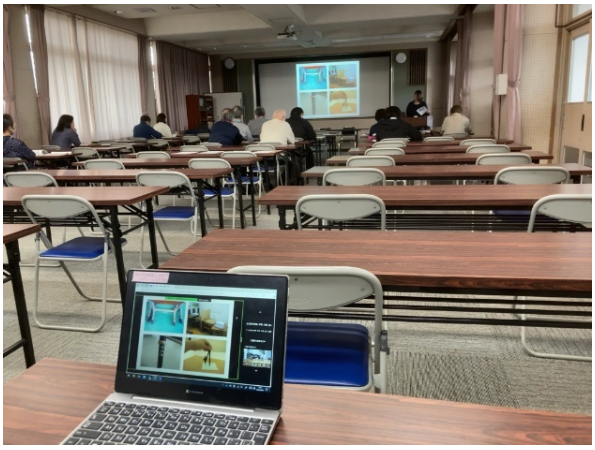
令和７年度は、新たに非認知能力に意識を向けた教職員研修・研究や小中一貫教育を推進するとともに、引き続き、不登校児童生徒一人ひとりの状況を把握し、個々のニーズに応じた多様な支援により、児童生徒が社会的自立に向かうことができるよう努めてまいります。

４月になり、教育センターにも新しい職員が加わりました。新年度のスタートにあたり、職員一同意気込みを新たにしております。それぞれの専門知識を活かしながら「チーム教育センター」として、子ども、保護者、学校園を支援し、市民一人ひとりが自分の可能性を信じ、夢に向かって自らの人生と八尾の未来を切り拓いていくと同時に、個人と社会のウェルビーイングが向上していくことをめざします。

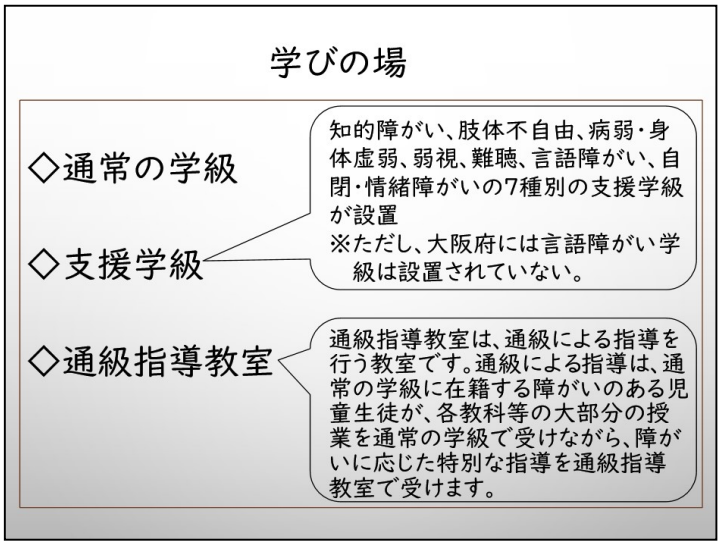
令和７年度も、ご支援・ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

八尾市教育センター
所長　辻本　貴昭

介助員・特別支援教育支援員・看護介助員研修①



令和７年４月３日（木）午後２時～午後３時に介助員・特別支援教育支援員・看護介助員研修①を行いました。直接来所するかオンライン・リアルタイムで受講するかは受講者が決めることができます。講師は本センター　松原　由佳　指導主事で、研修テーマは「勤務・服務について」と「特別支援教育の基礎基本」です。



＜受講者感想＞

- 支援教育に関しては、スモールステップ・視覚聴覚化・自己肯定感を高めることが三大要素だということを実感した。また、個々の児童生徒の状況、個性に合わせた対応が大切だと思った。
- 障がいのある児童生徒たちが、社会的に自立していけるように、支援・指導を丁寧におこない、共生社会形成の基盤をつくっていくことを意識していきたい。
- 「困った子ども」から「困っている子ども」へと見方を変えるようにとのお話は心に残った。これからも、常に意識していきたい。

八尾市教育センターの事業紹介！

教育相談事業	子どものすこやかな成長・発達を願い、教育上のさまざまな課題や保護者の悩みについて、来所相談及び電話相談を行います。また学校への巡回相談なども行い子どもたちをサポートします。
不登校等対策支援事業	さまざまな要因によって登校できない状況にある児童・生徒に対して、教育支援センターの開設、社会的自立に向けての支援（教育相談、集団生活への適応指導、ICT を活用した学習支援、居場所づくり等）を行います。
就学相談事業	個別の教育的支援が必要な幼児・児童本人や保護者の教育的ニーズや意向を踏まえ、より良い進路をともに考えていきます。
特別支援教育推進事業	特別な教育的ニーズのある児童・生徒に対する総合的な教育的支援のために、専門家チームが巡回するなど、学校への支援を行います。
ＳＳＷ（スクールソーシャルワーカー）活用事業	スクールソーシャルワーカーを学校に派遣し、子どもが抱える諸課題に対してアセスメントとプランニングを行い、関係機関と連携して児童・生徒や保護者への支援体制構築を図ります。
スクールサポーター派遣事業	大学生や地域住民をスクールサポーターとして市立学校に派遣し、学習支援や支援学級の活動支援の補助、不登校支援など、さまざまな教育活動の支援を行います。

教育研究・研修事業	＜教職員研修＞ 教職員の資質や知識技能の向上を図るため中核市教育委員会として法定研修をはじめ教育的ニーズに応じた研修を実施します。 〇初任者・新規採用者研修 、２年次研修 〇３年次研修 〇５年経験者研修・10 年経験者研修 その他、分掌別・担当者研修や各種課題別研修を行います。 ＜教育研究＞ 各学校長の推薦で研究協力員を募集し、授業研究や資料・情報の収集を行い、その実践事例などの成果を学校に普及していく活動を行います。
教育情報収集・提供事業	教科書センターとして、教科書の展示や貸し出しを行います。 また情報公開コーナーを設置し、教育図書などの閲覧や貸し出しを行います。
幼児教育研究・研修事業	幼児教育に関する研修、園内研究会への指導助言、幼児教育研究、特別支援教育・保育巡回指導を実施いたします。公立園と私立園の保育者が共に学び合う機会の充実を図り、幼児教育アドバイザーも活用しながら、八尾市の幼児教育・保育の質の向上と、小学校・義務教育学校前期課程における教育への円滑な接続をめざします。
小中一貫教育推進事業	中学校区でめざす子ども像を共有しながら、教職員が連携・協働し、子どもの９年間の成長を見通した指導体制・指導方法等を工夫することで、「学習意欲の向上」や「豊かな人間性や社会性の育成」「非認知能力の育成」をめざします。
ICT 教育推進事業	個別最適な学びや協働的な学びの一体的な充実を実現するために ICT 環境を整備します。そして ICT 活用による授業改善及び子どもたちの情報活用能力の向上をめざし、教職員に１人１台端末等ＩＣＴ機器の活用研修や情報モラルに関する研修、プログラミング教育の推進などを行います。また校務支援システムを活用し教員の働き方改革を推進します。さらに GIGA スクール構想の実現に向け学校 ICT 環境整備や情報機器・ネットワーク等情報インフラの管理運営業務を通して、教育の情報化の振興と充実を図ります。

教育センター「情報公開コーナー」

教育センターＢ棟（東側）の２階に「情報公開コーナー」があります。各種教育関係図書・雑誌等を配架しています。もちろん「教科書センター」として八尾市で採択している教科書や他社の教科書もあります。研修等で来所された時に直接ご覧いただければ幸いです。教科書・その他書籍・雑誌等も２週間の貸し出しを行っております。今回は３月から４月に配架した雑誌の誌名と目次の一部と書籍の内容を紹介いたします。

「指導と評価」（日本教育評価研究会）４月号
・特集　学校のチームワークを高める

東京福祉大学の　家近（いえちか）　早苗　教授は、「なぜ学校にチームワークが求められるのか―学校心理学の立場から―」と題して寄稿されています。「チーム学校」ということは以前からよく聞きますが、「よりよいチームワーク」のために必要なこととして２点挙げておられます。まず第１点目は「責任」についてです。「すべての児童生徒を学校全体あるいは教職員全体で援助するのが「チーム学校の責任」になります」と述べられています。「子どもに対する責任は、担任教師が一人で負うものではなく、教職員全員にあります。」とも述べられていてます。「チームの責任はチーム全体で負う」ということです。当然その話し合いは「私が一つ、あなたも一つ」という話し合いが行われなければなりません。２点目は「多様性を認める」ということです。「子ども」の多様性を認めるとともに、「援助者」の多様性を認めることが必要です。特に複雑な援助ニーズをもつ児童生徒の援助については「それぞれの援助者の役割や専門性の違いを認め合い、尊重すること」が必要で、「援助者が自分の特徴のよさを生かした援助をすること」が大切であると述べられています。　（葭仲）

「道徳教育」（明治図書）４月号
・スタートダッシュ大成功！道徳授業開きアイデア１５０

「月刊学校教育相談」（ほんのもり出版）※３月号をもって休刊となりました。

「特別支援教育」（文部科学省編集・東洋館出版社）令和７年春　№.９７
・特集　資質・能力を育成するための授業づくり
　ー各教科等の「見方・考え方」を働かせるー

「特別支援教育研究」（全日本特別支援教育研究連盟編集・東洋館出版社）４月号
・特集　夢をかなえる自立活動
　　～「ありたい・なりたい」自分と向き合う～

「初等教育資料」（文部科学省編集　・東洋館出版社）４月号
・特集Ⅰ　各教科等の目標の実現に向かう学習の過程を大切にした授業①
・特集Ⅱ　[体育]体力の向上　～学校における体育・健康に関する指導から見つめ直す～

「中等教育資料」（文部科学省編集・学事出版）４月号
・特集　STEAM 教育の実践

「STEAM 教育」ってご存じでしょうか。国立教育政策研究所 教育課程研究センター・基礎研究部 松原 憲治　総括研究官　は「STEAM 教育の実践による探求的な学びの充実」という記事の中で説明して下さっています。「科学（Science）、技術（Technology）、エンジニアリング（Engineering）、数学（Mathematics）の頭文字をとったもの」に「アート（Art）やリベラルアーツ（Liberal Arts）の[A]を加えたもの、ということで、日本の初等中等教育段階の STEAM 教育については「実世界の課題解決、教科横断、文理融合という言葉で表されることが多いそうです。当然、STEAM 教育は探求的な学びと関連深いのですが、課題設定と学習過程が特に重要です。課題設定については「生徒自身が意味のある課題を設定したりするために、教員の指導や支援が必要である」とし、学習過程については「各教科・領域固有の観点や思考方法を複数用いることができるような課題のデザイン」が期待されています。今後日本の STEAM 教育の実践を広げるためには「STEAM の[A]の扱いが鍵になる」とのことです。その中で「学習課題を構想する際、[A]に関わる創造性などの要素を、問いにしっかりと関連するようにデザインすること」が大切であるとされています。最後に「生成 AI の加速度的発展などの社会の変化の中で、既存の情報の整理・分析については人よりも AI の方が有能とし、豊かな人間性を育むこと、情報の意味を理解し問題の本質を問うことに加えて、課題を発見したり設定したりすることの重要性が高まる」という２０２４年９月の「今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会」の「論点整理」を紹介し、「生徒が課題や問いを設定する、真正の探究と分類されるような探究的な学びの充実」の重要性を指摘されています。

（基礎

教育科学「国語教育」（明治図書）４月号
・特集　国語授業開きアイデア超大全ー１日目からすぐ使える

教育科学「社会科教育」（明治図書）４月号
・特集　ゼロからわかる！社会科「授業開き」虎の巻

「新しい算数研究」（新算数教育研究会編集・東洋館出版社）４月号
・特集　現行学習指導要領の主旨の実装に向けて

書籍：「八尾市史」（八尾市）

徳川家康は玉祖神社へ参詣したか？

玉祖神社参道の鳥居（旧国道 170 号の沿道）前に「徳川家康も御参詣」という”のぼり”を見かけました。豊臣秀頼が寄進したと言われる石燈籠があるのは知っていましたが、なんで徳川？と思ってしまいました。ちょうど NHK で大河ドラマ「どうする家康」（令和５年１月～１２月）を放映した頃で、「もしかしてドラマに乗じて勝手にそんなことを言ってるのかな」と思ってしまいました。

それでも気になっていたので、後に『新版　八尾市史　近世史料編２』で調べてみると、その謎が解けました。377～384 ページの「玉祖社御口訣抜書幷社領由来記」に、慶長８年（１６０３）に「大権現様（徳川家康）」が「河内高安郡」に「鷹狩」にきて「玉祖明神（玉祖神社）」を参詣し、「山手銭」「山手米」を寄進したことが記されています。

この由来記は貞享元年（1684）に将軍の代替り（家綱から綱吉へ）に伴い、社領の朱印を改める際に作成し、江戸の寺社奉行に持参したもので、神社の由来や神仏習合の状況とともに社領の正当性を訴える内容となっています。

そこで気になるのは、豊臣が寄進したという石燈籠です。１６０４年に寄進したと伝わる石灯篭（八尾市最古石燈篭）があります。１６０３年に徳川家康が征夷大将軍になって江戸幕府を開きました。そして上記のように、その年、家康が河内に鷹狩に来て玉祖神社を参詣したと伝えられており、その翌年に寄進したことになります。この時、１６０４年に豊臣秀頼は１１歳です。豊臣秀吉が亡くなった１５９８年以降、後継の秀頼は戦乱で荒廃した全国の寺社に寄進して復興しています。秀吉の追善供養との名目です。一説によると、「武力による豊臣家再興をする気はありません」という意思表示だという説や、豊臣の莫大な財力を減らすために徳川側が促したとの説もあります。何れにしても全国で１００以上の寺社を復興したことは事実で、それだけの財力があったということです。ただ、この行いが後に１６１２年の方広寺鐘銘（しょうめい）事件にもつながります。

ちなみに、中学校社会（歴史的分野）の教科書では「家康は、１６０３年に征夷大将軍に任じられて江戸幕府を開き、次に大坂城の豊臣氏をほろぼして（大坂の陣）、およそ２６０年にわたって戦乱のない、徳川氏の支配の基礎を固めました。」（日本文教出版：122 ページ）と数行しか記述されていませんが、生々しい歴史の痕跡が八尾市域にも残っていると思うと、わくわくするのは元中学校社会科教員だけではないはずです。なにより、「新版　八尾市史」を編纂するにあたっては「未来の八尾市を拓く礎とする」ことを目的に、多くの時間・労力が費やされています。図書館はもちろんのこと、教育センター情報公開コーナーに配架されているとともに、すべての小中学校に配布されています。ぜひ手に取って、ページを開いてください。全国版の歴史の中で、八尾市域の果たした役割を垣間見ることができます。

（葭仲）